

平成 24 年度「学力向上のための P D C A サイクルづくり支援事業」
P 調査分析結果について

教 学 指 導 課

1 調査教科及び調査した児童生徒数

() 内は全体に対する割合

	国語	算数・数学	英語
小学校 4 年		11,955 人 (59.4%)	
小学校 5 年	15,724 人 (76.2%)	15,728 人 (76.2%)	
中学校 2 年	14,960 人 (72.9%)	14,976 人 (73.0%)	15,133 人 (73.7%)

参考；全県 小学校 4 年 20,118 人 5 年 20,635 人 中学校 2 年 20,528 人

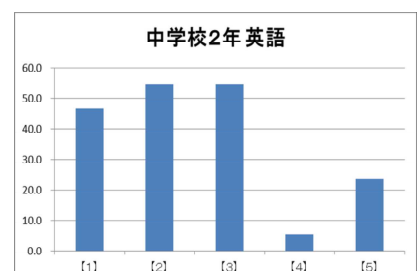
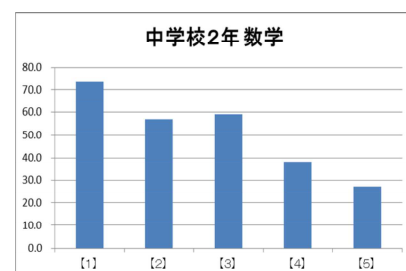
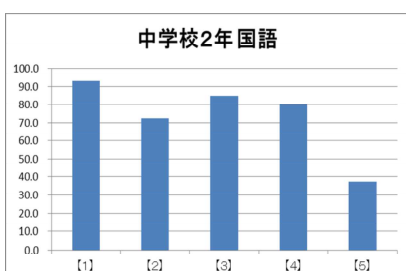
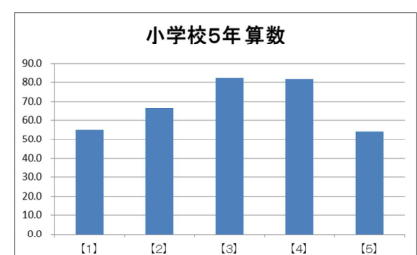
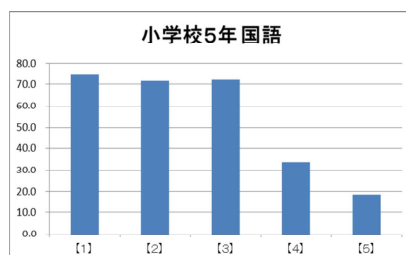
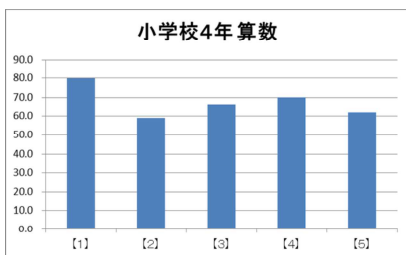
過去の参加状況

		国語	算数・数学	英語
平成 23 年度 P 調査	小学校 5 年	14,437 人	14,428 人	
	中学校 2 年	13,651 人	13,470 人	13,571 人
平成 22 年度 P 調査	小学校 5 年	14,047 人	14,041 人	
	中学校 2 年	11,245 人	11,227 人	11,356 人

2 各問の正答率

(単位%)

問題番号		【1】	【2】	【3】	【4】	【5】
小学校 4 年	算数	79.9	59.0	66.1	70.2	61.8
小学校 5 年	国語	75.1	71.4	71.9	33.9	18.6
	算数	55.0	66.6	82.1	81.5	54.3
中学校 2 年	国語	93.0	72.3	84.9	80.0	37.3
	数学	73.4	56.8	58.9	38.4	27.3
	英語	46.4	54.4	54.4	5.4	23.5



(1) 経年変化をみる問題について

<小学校5年算数【1】(小数+整数の基礎的な計算の技能をみる問題)>

1.4 + 3 を計算しなさい。

P 調査参加学校数

小学校4年	242校
小学校5年	298校
中学校2年	149校

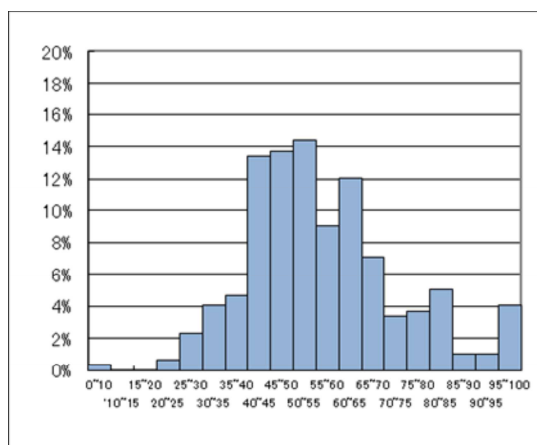
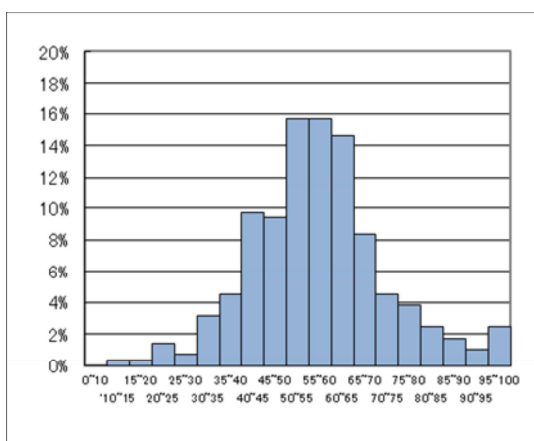
○正答率の経年変化

平成23年度 56.4% → 平成24年度 55.0%

○学校ごとの正答率の分布 (縦軸は学校数の相対度数、横軸は正答率)

平成23年度

平成24年度



昨年度とほぼ同様の正答率となった。誤答例をみると、「1.7」としている児童が2割程いる。位取りを意識せず4と3を単純に足してしまう誤答であり、機械的に計算してしまっていることが原因と考えられる。小数+整数の計算の意味を考えて、位をそろえて計算することの理解を一層定着させたい。

<中学校2年数学【2】(基本的なグラフについての理解をみる問題)>

比例の関係 $y = -2x$ のグラフをかきなさい。

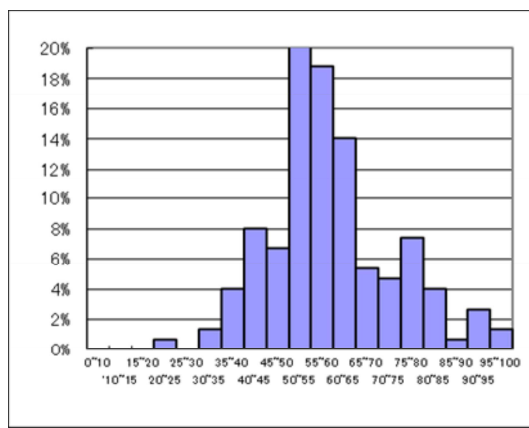
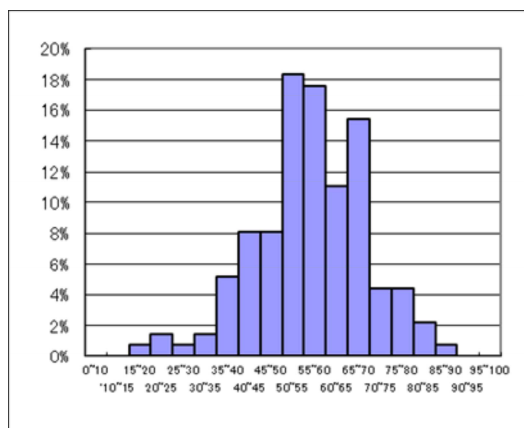
○正答率の経年変化

平成23年度 55.3% → 平成24年度 56.8%

○学校ごとの正答率の分布

平成23年度

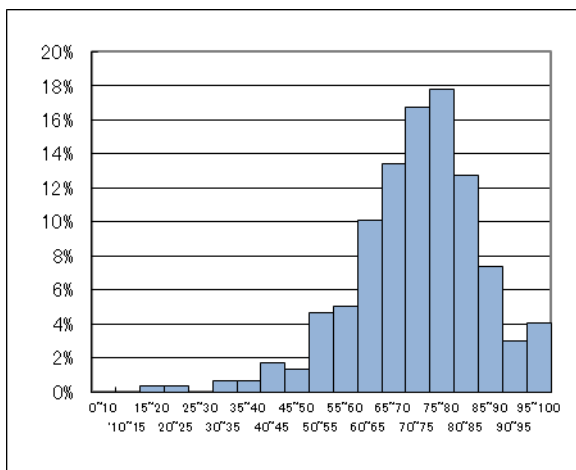
平成24年度



昨年度と比較して、正答率40%未満の学校が減り、正答率70%を超える学校が増えている。さらに、比例の関係をグラフに表すことの確実な定着を図っていききたい。

(2) 記述に関わる基本的な問題について

<小学校5年国語【三】> 正答率71.9%



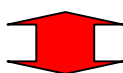
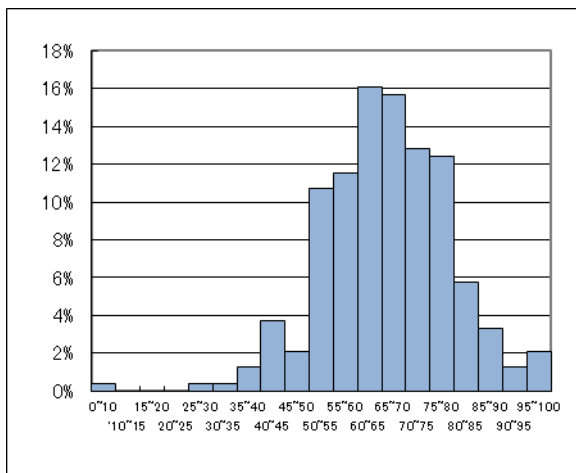
毎日、校庭を
走ってトレーニ
ングをした。
だから、マラ
ソン大会で一
位
になった。

次の二つの
文を、全体の
意味を変えず
に一つの文に
しましょう。

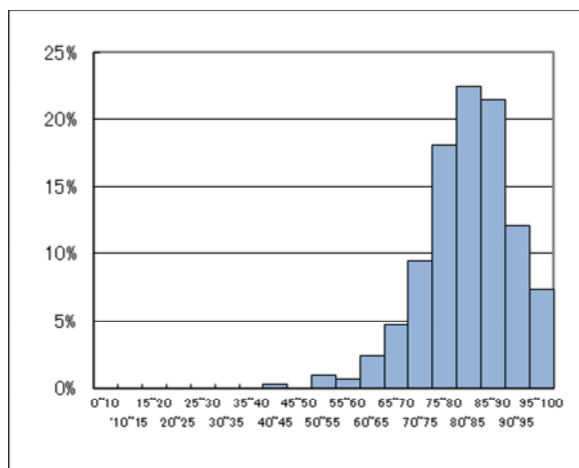
正答率は71.9%と多くの児童が一つの文にできている。15%~100%まで広い範囲にちらばり、学校による差がみられる。誤答例をみると、題意がつかめていない児童や逆接でつないでしまう児童が2割程いる。接続語の種類と働きを確認し、一文を二文にしたり、二文を一文にしたりといった、文と文がどんな関係になるかを考え表現する学習を進めたい。さらに、日記など日常的に文章を書くなどの活動も大事にしたい。

(3) 同一問題による比較について

<小学校4年算数【3】> 正答率66.1%



<小学校5年算数【4】> 正答率81.5%



テープが2本ある。テープの長さは、次のようになっています。

- ・赤色のテープの長さは4m
- ・黄色のテープの長さは12m

黄色のテープの長さは、赤色のテープの長さの何倍ですか。求める式と答えを書きましょう。

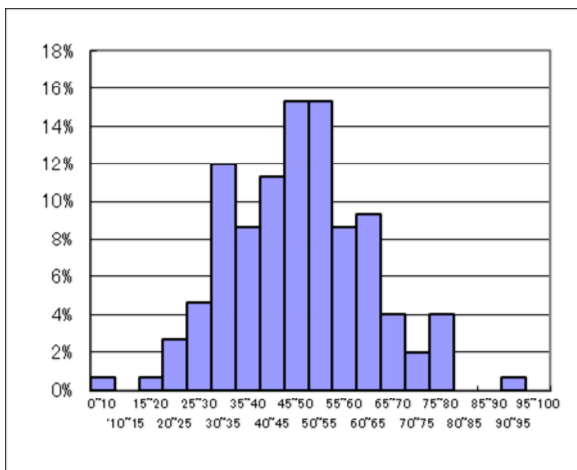
除法の意味について児童がどう理解しているかをみる問題を、4、5年で実施した。

4年では、学校ごとの正答率が全範囲に広くちらばっており、多くの階級の割合が、10%~16%となっている。誤答例をみると、「比べる量」や「もとにする量」がつかめない児童が2割程いる。「~は~の何倍」という数量の関係を調べ、式に表すという学習活動を取り入れながら理解を深めたい。

また、5年では、右寄りの分布となっており、正答率が70%~100%の範囲に集まっており、4年と比べて学校ごとの差が小さい。線分図などに数量を表して関係を調べるなどの「学び直し」の成果がみられる。教科の特性である系統性を考慮しながら、徐々に理解を深めていく子どもの学びに寄り添い、様々な単元や領域において線分図などに数量の関係を表す算数的活動を取り入れて授業改善を進めたい。

(4) 学校ごとの正答率の分布に特徴がある問題について

<中学校2年英語【1】> 正答率46.4%



Are you ①(enjoy) your school life now?
 下線部①の()内の語を、最も適切な形になおして、1語で書きなさい。

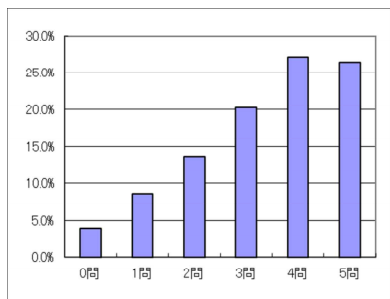
学校ごとの正答率が0~95%の範囲でちらばっている。誤答例をみると、enjoyの語尾の「y」をとってしまったり、「ed」をつけてしまったりした誤答が2割程いる。昨年度、現在進行形の肯定文の問いに対しては53.4%の正答率であったが、疑問文の問いになったことで正答率が下がったと考えられる。肯定文・疑問文の言い換えや口頭練習を生活場面と関わらせて行う授業場面をつくりたい。

3 正答数の分布

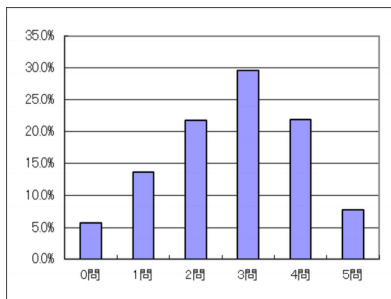
(単位%)

正答数		0問	1問	2問	3問	4問	全問
小学校4年	算数	4.0	8.6	13.7	20.2	27.1	26.4
小学校5年	国語	5.7	13.7	21.7	29.5	21.8	7.6
	算数	2.1	6.8	15.1	23.8	29.6	22.6
中学校2年	国語	0.6	3.1	9.9	24.5	38.6	23.3
	数学	9.0	18.2	22.3	21.3	17.7	11.4
	英語	22.4	21.7	22.6	19.0	11.3	3.0

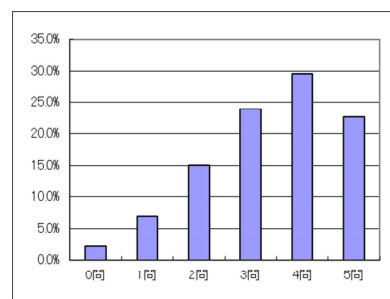
<小学校4年算数>



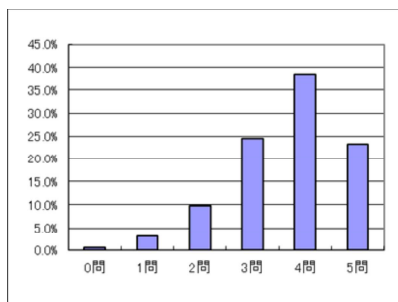
<小学校5年国語>



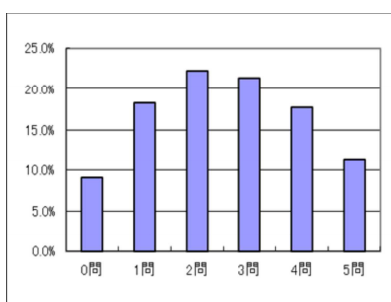
<小学校5年算数>



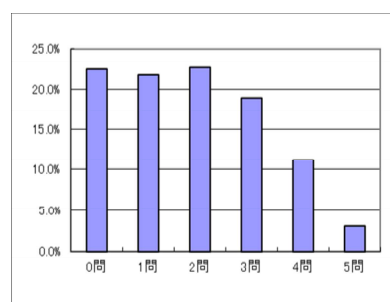
<中学校2年国語>



<中学校2年数学>



<中学校2年英語>



小学校の国語、算数及び中学校の国語は右より、中学校の数学は、ほぼ左右対称の分布となった。各校では、自校の分布と比較することにより、課題を見だし授業改善を進めたい。中学校2年では正答数が0問又は1問の生徒が、数学で3割程、英語では4割程いる。中学校1年後半から学習内容の定着に差が見られるようになるので、個に応じた丁寧な指導が必要となる。日々の授業においても、

基礎的な内容が確実に身につくよう授業改善を進めたい。特に英語では顕著な傾向がみられるが、正答率の低い問4が分布に影響している。誤答例をみると、約4割の生徒は動詞を have、haves としてしまい、動詞を適切な形にして答えることができていない。また、「Koji's school に対して、解答では代名詞 It を使うこと」など、状況に応じた単語の使い方が十分理解できていない生徒もみられる。不規則動詞や三人称単数の主語について、言語活動を丁寧に行いながら慣れさせ理解を深めたい。

4 家庭学習の時間

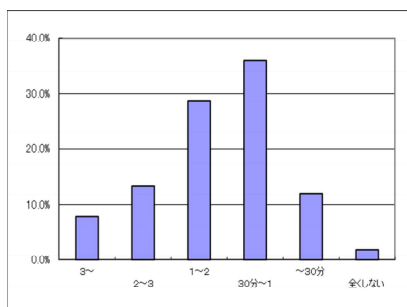
◇学校の授業時間以外に、ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。）

- | | |
|------------------|------------------|
| 1 3時間以上 | 2 2時間以上、3時間より少ない |
| 3 1時間以上、2時間より少ない | 4 30分以上、1時間より少ない |
| 5 30分より少ない | 6 まったくしない |

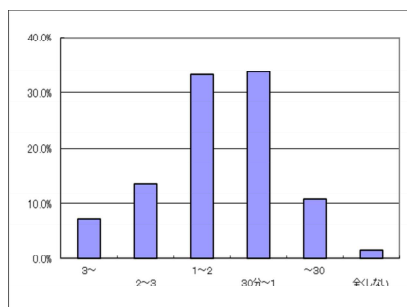
(単位%)

選択肢	3時間以上	2～3時間	1～2時間	30分～1時間	～30分	まったくしない
小学校4年	8.0	13.4	28.8	35.9	12.1	1.8
小学校5年	7.3	13.5	33.1	33.7	10.7	1.7
中学校2年	4.1	18.9	42.9	24.5	7.2	2.4

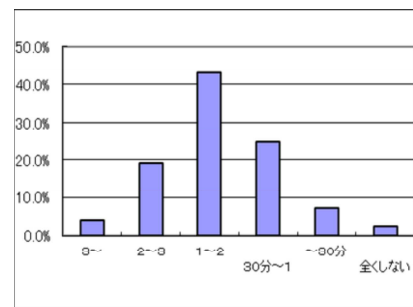
<小学校4年>



<小学校5年>



<中学校2年>



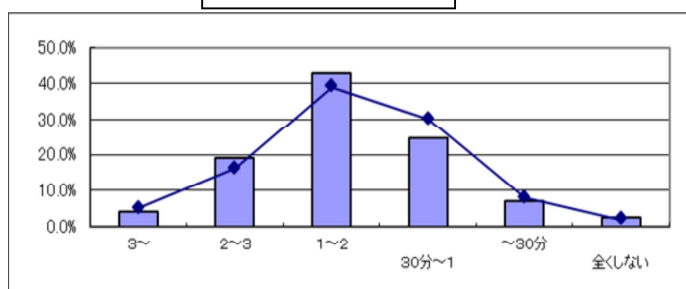
家庭学習の時間が1時間未満である児童生徒の割合が、小学校4・5年で45%、中学校2年で30%を超えている。昨年度と比べると、小・中学校ともに若干減少している。

小学校4年では、30分～1時間、中学校2年では、1時間～2時間の家庭学習を行っている割合が最も高い。小学校5年では、1～2時間と30分～1時間が30%を超える割合であった。

各校では、自校の分布を比較することにより、課題を見だし対応策を立てていきたい。

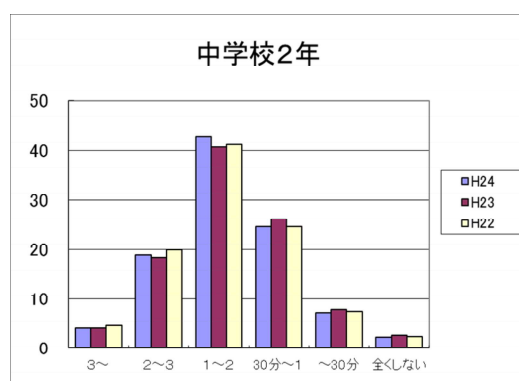
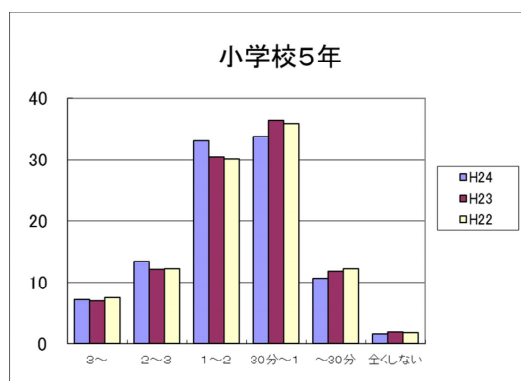
<例> 棒グラフが県平均、折れ線グラフが自校の分布

中学校2年



左のグラフのように、県平均と比較して、1時間未満の割合が高い学校は、該当する児童生徒に対して、学校と家庭が連携して生活習慣の見直しについてともに考えたり、予習・復習の具体的な方法を助言したりするなど、個に応じた対応策を考えていきたい。

○過去2年間の結果との比較



小学校5年では、1時間未満の児童の割合が減り、1時間以上の割合が増えている。中学校2年では、30分以上1時間未満の生徒の割合が減り、1時間以上2時間未満の割合が増えている。さらに1時間以上の児童の割合を増やしていきたい。

「家庭学習充実研修」を受けて、家庭学習の手引きを作成したり、保護者の協力を求めながら家庭学習の見直しを行ったりするなど、各校の工夫した取組の成果につながっている。また、校内において情報交換や研修の機会を取り入れ、学校全体の課題として取り組んでいる学校もある。今後は、児童生徒に学校からの宿題だけではなく自主的・計画的に家庭学習をする習慣を身に付けるようにするとともに、児童生徒の実態を踏まえながら、学習の内容についてもさらに充実していくようにしたい。

※ 家庭学習充実研修・・・昨年5～7月に実施。378校、66.4%の学校が参加。家庭学習の見直しを行った小学校は96.5%、中学校は96.8%。）

5 授業改善等の取組と正答率の関係

以下の点について積極的に取り組んでいる学校においては、学習内容の定着度が高い傾向にある。

- ・「授業がもっとよくなる3観点（ねらい、めりはり、見とどけ）」を意識して授業改善に取り組んでいる。
- ・学校全体で学習内容の定着に向けた指導改善（補充指導・個に応じた指導）に取り組んでいる。
- ・家庭学習の見直しを行い、教師や児童生徒の家庭学習に対する意識を高め、保護者による協力体制を整えてきている。
- ・学力に関する調査等の結果や改善の方向を保護者や地域に説明している。

学習内容を定着させて学力向上を図るためには、調査結果から明らかになってきた課題を当該学年だけではなく全職員が共有し、学校全体として課題解決に向けて取り組みたい。また、学力向上に向けては、家庭との連携も不可欠であることから、調査結果を保護者と共有するとともに家庭学習の見直しなど、具体的な連携を大事にしたい。

◆各教科の正答率及び提出された解答類型からみえる課題と授業改善の方向◆

【国語】＜小学校5年＞

- ・【一】は、俳句に描かれた情景について、叙述を基に想像しながら読む力を問う問題である。正答率は75.1%であり、類題の平成23年度全国学力・学習状況調査A7の県平均よりも5.4ポイント下回っている。俳句と感想の叙述を関連させて考える力に課題がみられる。文学的文章を読む学習では、情景描写や表現の特徴に着目して、想像しながら読んだり、叙述と叙述を関連付けながら読んだりする指導場面を設定したい。
- ・【二】は、複文における主語と述語との関係をとらえる問題である。正答率は71.4%であり、類題の平成23年度全国学力・学習状況調査A2よりも5.3ポイント上回っている。主語述語の照応について、指導の成果がみられる。但し、主語と述語の位置が遠い場合に関係がとらえられない児童が2割弱いるため、「述語の主体としての主語」という関係についての理解を定着させる指導の工夫を要する。
- ・【三】は、二文を一文に書き直す問題である。正答率は71.9%で、類題である昨年度のP調査問題よりも9.6ポイント上回っている。接続語の働きや文と文との関係をとらえる指導の成果が見られる。今後も、接続語の種類と働きを確認し、文と文の間にいろいろな接続語を入れて、意味の違いを比べてみるなどの学習をする機会を大切にしたい。
- ・【四】は、目的や意図に応じ、表現の効果を考えて書き換えることができるかどうかをみる問題である。正答率は33.9%と低く、これは、類題の平成23年度全国学力・学習状況調査A5よりも11.2ポイント下回るものである。文章中の「六年生」と「来入児」の関係がとらえられない、あるいは、「意味を変えないようにして書く」という設問の意図を読み取れない児童が3割弱いる。文や文章の視点を明確にしながらかき指導や文の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりする指導を充実させたい。
- ・【五】は、互いの考えの共通点と相違点を考え、司会の役割を果たしながら計画的に話し合うことができるかどうかをみる問題である。正答率は18.6%と低く、これは、類題の平成23年度全国学力・学習状況調査B1二よりも13.7ポイント下回るものである。出されている意見を共通点と相違点とに区別する力に課題がある。意見を比べて着眼点をはっきりさせ、共通点や相違点を整理しながら考えをまとめられるように話すこと・聞くことの学習を工夫したい。その際、自分たちの話合いや司会の様子を客観的に評価するような言語活動を取り入れていきたい。また、設問の意味が正しく理解できず、応えるべき情報を読み違えてしまっている傾向も見られる。さらに、無答率が3割弱と高いことから、本設問のように必要な情報を読み取ってまとめる問題に苦手意識を強く持っている児童が多い傾向もうかがえる。話すこと・聞くことのみでなく、様々な領域において、目的や条件に応じて、必要な情報を読み取り、まとめる学習を構想したい。

【国語】 <中学校 2年>

- ・【一】は、言語文化に関して敬語についての知識を問う問題である。正答率は 93.0%と高い。日常的な使用場面を設定して敬語の指導を行っている成果が現れたと言える。今後も、**実際の生活場면을想定した指導**を大切にしたい。
- ・【二】は、話し合いをする際に、話し合いの方向をとらえて的確に発言できるかについての問題である。正答率は 72.3%である。話し合いの目的や一つ一つの発言の意味をとらえる力をさらに伸ばしたい。そのために、**話し合いの途中で司会者が複数の発言をまとめたり、意見を整理したりする学習**を大切にしたい。その際、話し合いの活動だけでなく、自分たちの話し合いの記録を振り返り、評価するような言語活動を取り入れる工夫をしたい。
- ・【三】は、文章を書く際に、伝えたいことを的確に伝えるにはどうすればよいか考える問題である。正答率は 84.9%と高い。自分の考えを的確に伝えるための取材や選材を学習過程に位置付けた指導の成果が表れている。引き続き、**目的意識を明確にし、一つ一つの学習過程を大切に**する指導を心がけたい。
- ・【四】は、随筆を読んで文中の言葉の意味を考える問題を出題した。平成 23 年度の全国学力・学習状況調査の県平均 77.8%より 2.2 ポイント上回る 80.0%という正答率であった。辞書的な意味だけでなく、文脈の中での意味を考える指導の成果である。今後も、**文章のキーワードに着目し、語句が文章の中で果たしている役割について話し合う学習**を大切にしたい。
- ・【五】は、呼びかけ文に合うテーマを自分で選び、選んだ理由を条件に合わせて説明する問題である。平成 23 年度の全国学力・学習状況調査の県平均 33.0%よりも 4.3 ポイント上回り、37.3%の正答率であった。しかし、4 割に満たないことから、**自分の考えを根拠を明確にして書くこと**に課題が残るといえる。誤答の中に、解答の条件である「呼びかけ文の中の言葉を使って書く」を満たしていないものが 2 割弱みられる。文中の「企画や願いについての言葉」を読み取ることができなかったことが予想される。文中のキーワードに着目する等、**着眼点を明確にした学習**を心がけたい。また、「三文で書く」という条件を満たしていない誤答も 2 割弱みられた。このことから、文と文の関係を整理しながら、**根拠を明確にして説明する**という学習が不十分であることが伺われる。例えば、三文を、「意見」、「根拠」、「理由」をそれぞれ一文として構成するような学習を大切にしたい。

【算数】 <小学校4年>

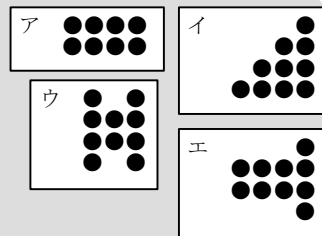
- ・【1】は、「(整数)+(小数)」の問題であり、正答率は79.9%であった。小数の加法・減法の指導では、小数の意味や仕組みについて数直線を使ったり、単位を付けて日常生活に結び付けたり、整数の計算に帰着させるなどして理解させてきた指導の成果だと考えられる。
- ・【2】は、時間の意味について理解しているかどうかをみる問題であり、正答率は59.0%であり、平成17年度の県学力実態調査の類題の正答率53.0%に比べて高くなっている。しかし、誤答をみると「2時間25分」と数字上で単純にひき算しているものが1割程ある。そこで、指導にあたっては、実際に時計の針を動かして時間の経過をつかむことが出来るようにしたり、日常生活の中で時々時刻や時間を問いかけたりするなどの指導を図りたい。また、時間を数直線に結び付けて、数直線で考えることができるようにしていく指導も大切である。
- ・【3】は、除法の意味について理解しているかどうかをみる問題であり、正答率は66.1%であった。本年度の5年の【4】と同一問題であり、5年の正答率81.5%に比べて低い結果となった。今後、スパイラルな学習を位置付けながら学力が定着するようにしていきたい。その際、「もとにする量」と「比べる量」と「倍」の関係を調べたり、数直線や線分図などに数量を表したりして考えるような算数的活動を取り入れて、除法の意味が理解でき、活用につながる指導を図りたい。
- ・【4】は、身近にある事象の中からこれまでに学習してきた基本的な図形を見いだすことができるかどうかをみる問題であり、正答率は70.2%であった。平成16年度の特定の課題に関する調査の同一問題の正答率58.7%に比べて高い結果である。しかし、無解答が1割程あることから、生活の場で同じように動く軌跡で円になっているものを確認したり、その軌跡をフリーハンドでかいたりする指導を図りたい。また、日常事象と図形教材とを意図的に結び付けた指導をすることによって、図形への関心を高めることが期待できる。
- ・【5】は、式を表す意味を図と結び付け、求め方を図に線で囲んで説明することができるかどうかをみる問題であり、正答率は61.8%であった。式の意味を確実に捉えさせるために、式を読む活動を位置付けたり、図と式を関連付けるために、図から式へ、式から図への双方向への学習を位置付けたりすることを大切にした学習指導を図りたい。(下記参照)

1年から継続的な指導を

図や式を読む学習や図と式を相互に関連付けた学習を！

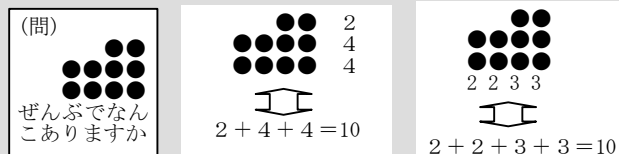
◇式の意味を確実に捉えさせるために、式を読む活動を位置付けましょう。

- ・「10この●をつかって、いろいろなかたちをつくりましょう」という学習課題に取り組むことで、10個の並べ方に多様な並べ方やきまりがあることをつかませましょう。
- ・(例1)「右図のア～エの中で、 $4 + 2 + 4$ をあらわしているかたちはどれですか」
- ・(例2)「 $4 + 2 + 4$ をあらわすかたちをつくりましょう」



◇図と式を関連付けるために、図から式へ、式から図への双方向の学習を位置付けましょう。

- ・学習問題「●は、ぜんぶでなんこありますか」を考える中で、まとまりのつくり方に着目し、式で表現したり、式からまとまりのつくり方を類推したりする学習や説明し合う学習を位置付けましょう。



【指導シート】より

【算数】 <小学校 5 年>

- ・【1】は、小数の加法「(小数) + (整数)」の計算の問題であり、正答率は昨年度 56.4%、一昨年度 56.9%とほぼ同じで、55.0%となっているが徐々に下がってきている。位取りを意識せずに足し算をし「1. 7」と答えた児童が3割程度いると考えられる。引き続き、小数の加法・減法の指導では、**小数の意味や位取りなどの仕組みについて数直線を使ったり、単位を付けて日常生活に結び付けたりして実感できるようにすることが大切である。**また、**整数の計算(14+3)と比較して考える場面**を設けるようにしたい。5 学年の「小数×小数」の学習においても小数の位取りなどの仕組みを意識し、**具体物や生活場面に結び付けて理解したり、答えの見積もりをしたりする指導**をしていきたい。
- ・【2】は加法と乗法の混合した整数の計算をする問題であり、平成 22 年度全国学力・学習状況調査における正答率 66.3%とほぼ同じ 66.6%であった。今後も**加減や乗除を用いる具体的な場面と式の表現とを結び付けて考えたり、逆に式表現からその意味を読み取ったりする算数的活動**を通して、式の意味や、計算の順序を意識できるようにする指導をしていきたい。
- ・【3】は、真分数、帯分数及び小数の大小関係についての問題である。正答率は、昨年度の整数と分数の大小関係を比較する問題(正答率 53.9%)以上に複雑になっているにもかかわらず、82.1%とかなり上がっている。これは**分数では 2 学年から素地的な学習活動を行ったり、小数では 3 学年より具体物等を操作したりして理解を深める指導**が学年をこえてスパイラルに行われてきた成果だと考えられる。
- ・【4】は除法の意味についての問題で、正答率は 81.5%であった。昨年度は 80.5%で徐々に上がってきている。今後も、数直線や線分図などに数量を表して、それらの関係を調べる算数的活動を取り入れ、何が「もとにする量」で、何が「比べる量」なのかを明確にし、**何倍とは、「もとにする量」を 1 とみて、「比べる量」がいくつ分とれるかということ**を理解できるような授業を展開したい。
- ・【5】は、示された計算の工夫を解釈し、それを参考に別の計算で計算の工夫を考え、式に表現する問題である。正答率 54.3%で、平成 16 年度特定課題に関する問題(正答率 60.6%)と比べると下がっている。日常の授業を進めるに当たっては、計算で答を求めることばかり扱うのではなく、工夫して計算処理したよさについて感じられるような学習場面を設定したい。また、交換法則、結合法則、分配法則を具体的な場面で理解することや、数を他の数の積として見るなどの数感覚をつけることを意識して指導し、**数量の関係を式に表したり、式を読み取ったりする学習を位置付け、説明し伝え合う算数的活動の充実**を図りたい。例えば 5 学年では、わけを説明しあう学習で、1 つの考え方だけを扱うだけではなく、自分と違う友の考えのよさを話し合う、1 つの解き方をもとに他の解き方を考え合う、誤った考えを直すなどの学習が考えられる。

【数学】＜中学校2年＞

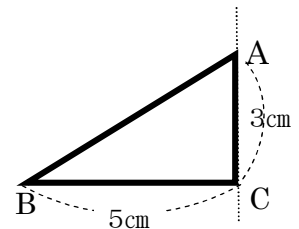
・【1】は、正負の数の四則計算であり、正答率は、73.4%で、安定した力がついてきている。これは、誤りのある計算について、誤答になる理由を考え、正しい計算方法との違いについて検討する場面を仕組むなど、指導の工夫が行われてきた成果だと考えられる。今後も、項を意識しながら計算の順序を確かめて正しい計算ができるように指導したい。

・【2】は、比例のグラフをかく問題であり、正答率が昨年度からは上昇し、本年度は56.8%であった。解答類型からは、右上がりのグラフをかいた生徒は1割弱であり、比例定数がマイナスのグラフが右下がりになることは理解できていた生徒が多かったが、比例定数が $-1/2$ のグラフをかいた誤答が約13%みられた。関数領域では、 $y = -2x$ の -2 が、表やグラフにどのように現れているか考えるなど、比例定数に着目し、**表、式、グラフを関連付けながら関数の特徴を見いだしていく数学的活動**を位置付けていきたい。

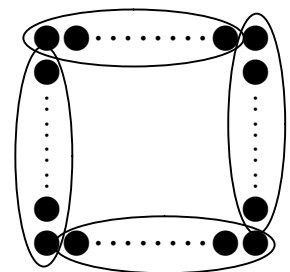
H20	60.1%
H21	58.9%
H22	54.6%
H23	55.3%
H24	56.8%

・【3】は、方程式の解の意味についての問題である。正答率は昨年度61.2%で、今年度58.9%となった。約4割の生徒が、一元一次方程式の解と方程式の左辺や右辺の値との区別ができていないと考えられる。一番多い誤答は、アの「左辺と右辺の値がともに3なので、3はこの方程式の解である」であった。変数を含んだ相当関係を満たす値が方程式の解であるとの意味を理解するために、様々な数を方程式に代入するなどして解を試行錯誤しながら探す数学的活動を位置付けたい。また、方程式を解いて得られた値がその方程式の解であるかどうかを確かめる際に、**方程式の解の意味を確認**することが大切である。

・【4】は、円錐の体積を求める問題であり、今年度は、問題の図形に回転の軸を示して出題した。見取図を選択させて出題した昨年度のP調査（ $AC = 3\text{ cm}$ 、 $BC = 5\text{ cm}$ ）と比較すると、正答率は平成23年度32.9%、今回の調査では38.4%と上昇している。立体の構成や計量について、具体物を示したり実際に作ったりしながら実感的に学ぶ授業の工夫が伺える。しかし、 $1/3$ をかけ忘れたり、単純に AC と BC をかけて答えとしたりしている誤答がそれぞれ1割程度ずつ見られた。覚えた公式に数値をあてはめて体積を求めるだけでなく、**計算の過程や求めた数値を実際に作った立体と関連付けてとらえる**などの工夫が必要である。



・【5】は、文字式の意味を読み取る問題であり、正答率は27.3%となった。正答の条件には解説シートに3点あげたが、3点のうち、設問の趣旨に則し必要な条件を満たしている準正答は1割弱となった。誤答の約3割は、図を適切に囲めていないものであり、 $1/4$ の生徒は無解答であった。文字式に抵抗を感じる生徒には、まず一辺に6個の基石を並べたときの $4 \times (6 - 1)$ の意味を図と関連させながら説明し、その後6を x に変えたときの説明を考えるよう助言するなどの手だてが必要である。また、互いの考えを説明し伝え合う数学的活動を通して、**結論まで正しく書くことの大切さを生徒が実感**できるような授業を一層進めていく必要がある。



【英語】 <中学校 2年>

【1】 [Q] Are you (enjoy) your school life now? → [A] Are you enjoying your school life now?

現在進行形の理解をみる問題であり、正答率は46.4%である。昨年度の53.4%より約7ポイント下回った。直前のbe動詞と文末のnowに着目しないで、enjoyを過去形にした生徒や、語尾のyをとってしまった生徒が2割ほどいると考えられる。今後、現在進行形の理解を図る指導を一層丁寧に行うとともに、十分な口頭練習と【主語+動詞】に着目しながら書く活動を継続したい。

【2】 [Q] (well / it / can't / very / use / I). → [A] (I can't use it very well).

「主語+助動詞+動詞+目的語」の語順の定着をみる問題であり、正答率は54.4%である。昨年度の76.1%より約20ポイント下回った。助動詞の指導を丁寧に行い、日常の授業の中で《主語+助動詞+動詞》の語順を意識させる必要があると考えられる。今後も、生徒に英語と日本語との《語順》の違いを意識させ、場面や働きを意識した言語活動の中で定着を図れるような指導を継続したい。

【3】 [Q] Does Koji like science very much? → [A] (Yes), (he) (does).

簡単な質問を理解し、Yes、Noで適切に答えることができるかどうかをみる問題である。正答率は54.4%であり、昨年度の49.6%とより約5ポイント上回った。本文中のfavoriteの意味と疑問文中のlike very muchがほぼ同じ意味を表していることが理解できずにNo, he doesn't.と解答している生徒が1～2割程度いると思われる。教科書の本文の内容について《Yes-No 疑問文》を扱う中で、英文の内容を正確に理解させる指導を継続するとともに、同じ内容でも異なった既習表現で表す指導も行っていきたい。

【4】 [Q] How many students does Koji's school have? → [A] It (has) (about) (300) (students).

本文の内容について、疑問詞を使った質問を理解し、適切に答えることができるかどうかをみる問題であり、正答率は5.4%と低い。昨年度の22.9%や一昨年度の29.6%よりも低い。

解答類型をみると、約4割の生徒は動詞をhave、havesとしてしまったと考えられ、How manyで問われた内容は理解できているが、動詞を適切な形にして答えることができなかったと考えられる。haveをhasに戻せなかった原因として次の4点が挙げられる。

- ① 3人称の疑問文で原型の形で使われた動詞は、肯定文では主語に応じる形に戻すという学習が不足している。
- ② Koji's school に対して代名詞がItであることが理解できていない。
- ③ It(無生物主語)は、he、sheと同じ3人称単数の主語の仲間であることが理解できていない。
- ④ haveの3人称単数現在形の形がhasであることそのものが身につけていない。

また、《wh-疑問文》の過去の類題における正答率は次のようになっており、今後も《wh-疑問文》の指導については、継続して丁寧に指導していく必要がある。

過去の類題	正答率	過去の類題	正答率
平成 23 年度 C 調査	35.6%	平成 22 年度 P 調査	29.6%
平成 23 年度 P 調査	22.9%	平成 21 年度 C 調査	20.7%
平成 22 年度 C 調査	48.9%	平成 21 年度 P 調査	25.8%

具体的な指導改善として、次の点を行っていききたい。

- ・ 3 人称単数現在形の形についての指導、《wh-疑問文》の指導を授業の中で丁寧に、繰り返し、継続して行っていく。また、口頭練習による指導の授業への位置付けと、正確に書けるようにする指導や家庭学習への位置付けを意図的に行っていく必要がある。
- ・ 不規則動詞を使った言語活動の充実を図る。活用させる中で、文法的な理解を確かなものにしていく。その際、正しい文の形で答えたり、書いたりして確実に定着を図るようにしていく。
- ・ 無生物主語についての指導を、必要に応じて言語活動に盛り込みながら、慣れさせ理解できるようにしたい。さらに、Q A 活動等を毎時間位置付けたり、身近な人やものについて紹介する等の言語活動の中で、三人称の主語に応じて動詞を適切に用いる指導を行ったりしていききたい。

【5】[Q] あなたがふだん放課後にすることを1つ取り上げて After school, に続けて英語で1文書き、そのことについてのあなたの考えや気持ち、付け加えの事実などを英語で1文書き加えなさい。
→[A] (例) I play tennis. I like it very much. 等

自分自身について2文で紹介文を書く問題である。正答率は23.5%であり、昨年度の45.5%比べて約22ポイント下回った。内容的には理解できる2文を積極的に書いて表現しているものの文法及び単語の綴りに間違いがあったことや、何を書いてよいのか分からずに無回答であったことが考えられる。今後、まとまりのある英文を書く活動においては、生徒が書きたくなるような場面や話題を設定し、モデル文を提示し、文章の構成や内容について見通しをもたせるようにする。また、その中で文法の理解や単語の綴りの正確さを定着させる指導の工夫を行っていききたい。

(参考) P調査 解答類型の集計(解答類型を提出した学校の集計)

※ 解答類型を提出した学校についてまとめたものなので、全数集計ではありません。

※ ◎は解答として求める条件をすべて満たしている正答、○は設問の趣旨に即し必要な条件を満たしている正答(準正答)、「無」は無解答です。

【小学校4年】算数 参加242校中、92校提出、3425人 参加児童11955人に対する割合 28.6%

解答類型	【1】			【2】			【3】			【4】			【5】		
	人	%		人	%		人	%		人	%		人	%	
1◎	2734	79.8	1◎	2095	60.8	1◎	2313	67.8	1◎	2308	67.3	1◎	1904	58.8	
2	347	10.1	2○	64	1.9	2○	11	0.3	2○	215	6.3	2○	142	4.4	
3	35	1.0	3	12	0.3	3	173	5.1	3	264	7.7	3	98	3.0	
9	264	7.7	4	357	10.4	4	30	0.9	4	11	0.3	4	94	2.9	
0無	45	1.3	5	10	0.3	5	35	1.0	9	389	11.3	5	206	6.4	
			6	15	0.4	6	17	0.5	0無	242	7.1	6	32	1.0	
			9	832	24.2	7	55	1.6				7	14	0.4	
			0無	59	1.7	9	722	21.2				8	29	0.9	
						0無	56	1.6				9	526	16.2	
												0無	194	6.0	
計	3425		3444			3412			3429			3239			

【小学校5年】国語 参加298校中、117校提出、4814人 参加児童15724人に対する割合 30.6%

解答類型	【一】			【二】			【三】			【四】			【五】		
	人	%		人	%		人	%		人	%		人	%	
1◎	3591	74.6	1◎	3394	70.7	1◎	3051	63.4	1◎	1552	32.3	1◎	842	17.6	
2	737	15.3	2	133	2.8	2○	419	8.7	2	1257	26.2	2	136	2.8	
3	86	1.8	3	739	15.4	3	154	3.2	9	1745	36.3	3	1246	26.1	
4	20	0.4	4	7	0.1	9	960	20.0	0無	248	5.2	4	141	2.9	
9	252	5.2	9	466	9.7	0無	227	4.7				9	1344	28.1	
0無	128	2.7	0無	62	1.3							0無	1071	22.4	
計	4814		4801			4811			4802			4780			

【小学校5年】算数 参加298校中、117校提出、4817人 参加児童15728人に対する割合 30.6%

解答類型	【1】			【2】			【3】			【4】			【5】		
	人	%		人	%		人	%		人	%		人	%	
1◎	2633	54.7	1◎	3294	68.7	1◎	3874	80.7	1◎	3955	82.4	1◎	1236	25.9	
2	1744	36.2	2	984	20.5	2○	106	2.2	2○	2	0.0	2◎	1017	21.3	
3	164	3.4	9	479	10.0	3	275	5.7	3	96	2.0	3◎	250	5.2	
9	251	5.2	0無	37	0.8	4	162	3.4	4	8	0.2	4○	197	4.1	
0無	25	0.5				5	58	1.2	5	31	0.6	5	119	2.5	
						9	293	6.1	6	15	0.3	6	107	2.2	
						0無	33	0.7	7	161	3.4	9	1561	32.7	
									9	470	9.8	0無	290	6.1	
									0無	61	1.3				
計	4817		4794			4801			4799			4777			

【中学校2年】国語 参加149校中、66校提出、4707人 参加生徒14960人に対する割合 31.4%

解答類型	【一】			【二】			【三】			【四】			【五】		
	人	%		人	%		人	%		人	%		人	%	
1	17	0.4	1	621	13.2	1◎	4014	85.3	1	226	4.8	1◎	1744	38.3	
2	264	5.6	2	324	6.9	2	121	2.6	2	277	5.9	2	640	14.1	
3◎	4377	93.0	3◎	3488	74.2	3	146	3.1	3	400	8.5	3	700	15.4	
4	29	0.6	4	247	5.3	4	408	8.7	4◎	3772	80.2	4	202	4.4	
9	0	0.0	9	1	0.0	9	4	0.1	9	6	0.1	5	98	2.2	
0無	20	0.4	0無	19	0.4	0無	14	0.3	0無	24	0.5	9	818	18.0	
												0無	348	7.6	
計	4707		4700			4707			4705			4550			

【中学校2年】数学 参加149校中、66校提出、4381人 参加生徒14976人に対する割合 29.3%

解答類型	【1】			【2】			【3】			【4】			【5】		
	人	%		人	%		人	%		人	%		人	%	
1◎	3365	76.8	1◎	2459	56.3	1	729	16.6	1◎	1776	40.6	1◎	923	21.0	
2	374	8.5	2	295	6.8	2◎	2700	61.6	2	273	6.2	2○	198	4.5	
3	301	6.9	3	586	13.4	3	538	12.3	3	454	10.4	3◎	93	2.1	
9	285	6.5	4	124	2.8	4	330	7.5	4	205	4.7	4○	108	2.5	
0無	56	1.3	9	676	15.5	9	12	0.3	5	527	12.0	5	267	6.1	
			0無	229	5.2	0無	72	1.6	6	107	2.4	6	1345	30.7	
									9	645	14.7	9	292	6.7	
									0無	391	8.9	0無	1161	26.5	
計	4381		4369			4381			4378			4387			

【中学校2年】英語 参加150校中、66校提出、4579人 参加生徒15133人に対する割合 30.3%

解答類型	【1】			【2】			【3】			【4】			【5】		
	人	%		人	%		人	%		人	%		人	%	
1◎	2243	49.0	1◎	2473	54.0	1◎	2545	55.6	1◎	251	5.5	1◎	896	19.6	
2	338	7.4	2	54	1.2	2	396	8.7	2◎	5	0.1	2○	147	3.2	
3	576	12.6	3	65	1.4	3	165	3.6	3◎	18	0.4	3	1019	22.3	
4	193	4.2	4	492	10.7	4	705	15.4	4	1645	36.2	4	303	6.6	
5	106	2.3	9	1327	29.0	9	370	8.1	5	217	4.8	5	114	2.5	
9	579	12.6	0無	167	3.6	0無	395	8.6	6	15	0.3	6	556	12.2	
0無	544	11.9							9	1279	28.1	9	650	14.2	
									0無	1116	24.5	0無	891	19.5	
計	4579		4578			4576			4546			4576			